



軽防協ニュース速報

2023 年第 4 四半期(10 月-12 月)の伝染病発生状況

2024 年 3 月配信

(International Collating Centre からの情報)

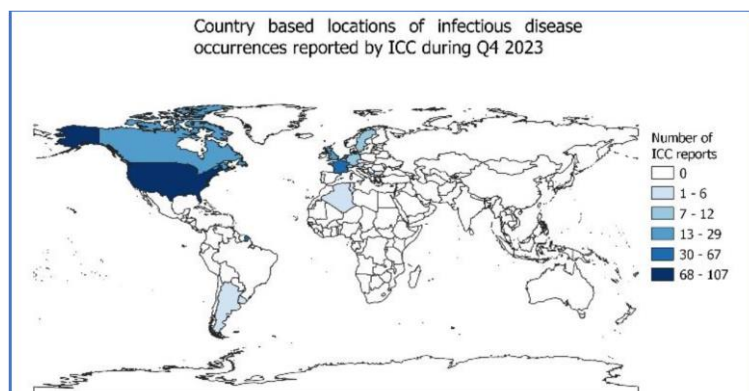
ICC 暫定（リアルタイム）のレポートは、equinesurveillance@gmail.com から受信登録を行うことで e-mail による受信が可能となる。

また、<https://equinesurveillance.org/iccview> のページ内にも、同内容のレポートや最新の流行状況が掲載されている。

この記事は、2023 年第 4 四半期（10 月-12 月）の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定（リアルタイム）のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に # 印を付して示されている。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1 件の発生で複数症例を含むものがある。

2023 年第 4 四半期、ICC は 16 カ国から 303 件の伝染病発生情報の報告をした（地図上の網掛け）。報告された特定の疾病・感染症は、腺疫（n=185）、ウエストナイルウイルス（n=62）、馬ヘルペスウイルス 4 型（n=51）であった。



繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1
ドイツ	1	-
日本	-	#3
オランダ	-	-2
南アフリカ	-	#1

四半期末に報告があった追加情報

馬伝染性子宮炎（CEM）

ドイツ

ノルトライン＝ヴェストファーレン州のアイスランドの種牡馬で、CEM が 1 例報告された。生殖器スワブ（亀頭窩、尿道洞、包皮表面）を用いた PCR 法で陽性と診断された。

馬ヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）による流産

日本

EHV-1 による流産が 3 件発生し、そのうち 1 件はワクチン接種を受けた馬であったことが報告された。陽性診断は胎子組織を用いた LAMP によって確認された。

南アフリカ

西ケープ州の施設で EHV-1 による流産が 1 例報告された。

オランダ

フリースラント州と北ホラント州で EHV-1 による流産が 2 件発生しそれぞれ単発症例であった。北ホラント州では複数の妊娠馬が飼育されていた。陽性診断は PCR で行われた。

呼吸器疾患

発生国	EHV	EHV-1	EHV-4	EI	ロドコツカス	腺疫
カナダ	-	-	-	1	-	9
フランス	-	-	18	1	2	11
ドイツ	-	-	1	-	-	-
オランダ	-	-	17	4	-	29
南アフリカ	-	#5	#2	-	-	
スウェーデン	-	#6	-	2	-	2
スイス	-	-	1	-	-	2
イギリス	-	-	13	4	-	-
アメリカ	1	-	-	2	-	35

四半期末に報告があった追加情報

馬ヘルペスウイルス（EHV）による呼吸器感染症

アメリカ

テネシー州ベッドフォード郡の施設において、EHV 呼吸器感染症 1 例（型は不明）が報告された。自主検疫を含む管理措置が実施された。

馬ヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）による呼吸器感染症

スウェーデン

EHV-1 呼吸器感染症が 6 件報告された。エステルイエートランド県で単発症例、ヴェストラ・イエータランド県で 2 例を含む 1 件が報告された。ヴェステルノールランド県で、患畜数が報告されていない発生が 1 件報告された。臨床症状は、咳、発熱、片側鼻漏などであった。症例のうち 2 例は鼻腔スワブの PCR 法で陽性と診断された。# 四半期終了後、ヴェストマンランド地方とヴェストラ・イエータランド県の別々の施設において、単発症例による 3 件の発生が報告された。陽性診断は鼻腔スワブの PCR で確認された。

南アフリカ

以下の州で 5 例の EHV-1 感染が報告された。ハウテン州（3 例）、クワズール・ナタール州（1 例）、北西州（1 例）。

馬ヘルペスウイルス 4 型（EHV-4）による呼吸器感染症

フランス

EHV-4 呼吸器感染症の発生が 18 件報告された。そのうち 15 件は、カルヴァドス県、コート・ドール県、オート＝ガロンヌ県、ロワール＝アトランティック県、マンシュ県、マイエンヌ県、モルビアン県、オルヌ県、ピュイ＝ド＝ドーム県、イヴリーヌ県の施設における単発症例である。残りの 3 件には、アヴェロン県とカルヴァドス県で発生した 2 例

を含む。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱などであった。陽性診断の大部分は鼻咽頭スワブを用いた PCR 法で確認された。

ドイツ

EHV-4 の呼吸器感染症が 1 例、ノルトライン・ヴェストファーレン州の 6 歳の騙馬で報告された。臨床症状は発熱と運動失調であった。鼻腔スワブを用いた PCR 法により陽性と診断された。

オランダ

17 件の EHV-4 呼吸器感染症のアウトブレイクが報告され、その大半は以下の施設での単発症例であった（ヘルダーラント州、フリースラント州、リンブルフ州、北ブラバント州、北ホラント州、南ホラント州、オファーアイセル州、ユトレヒト州）。陽性診断は PCR 法で確認された。

南アフリカ

四半期終了後、ハウテン州で 2 例の EHV-4 呼吸器感染症が報告された。

スイス

EHV-4 呼吸器感染症 1 例がジュネーブ州の施設で報告された。この症例には臨床症状は認められなかった。PCR により陽性が確認された。

イギリス

ケンブリッジシャー、チェシャー、グロスターシャー、ハートフォードシャー、リンカーンシャー、ノース・ヨークシャー、南西イングランド、スターリング、ウェスト・サセックス、ウィルトシャーの 11 カ所の施設で 1 例ずつ、フォルクークとウィルトシャーの施設で 2 例ずつ、計 13 件の EHV-4 呼吸器感染症のアウトブレイクが報告された。臨床症状としては、乾いた・激しい発咳、運動不足、嗜眠、リンパ節腫脹、粘液性鼻汁、眼脂、漿液性鼻汁が見られた。3 例では、*Streptococcus zooepidemicus* の同時感染がみられた。10 件が鼻咽頭スワブまたは鼻腔スワブを用いた PCR で、1 件は喉嚢および鼻腔洗浄液を用いた PCR で、1 件が鼻咽頭スワブを用いた LAMP 法で陽性を確認した。

馬インフルエンザ (EI)

カナダ

オンタリオ州ダラム市の施設内で 1 例が報告された。臨床症状は、持続的な発咳、粘液性鼻汁、発熱が認められた。施設内の他の馬数頭にも、ウイルス性呼吸器感染症に一致する臨床症状が認められた。

フランス

マイエンヌ県の施設で 1 例報告された。臨床症状は発熱、咳、鼻汁を認めた。鼻腔スワブの PCR で陽性と診断された。

スウェーデン

スコーネ県とヴェストマンランド県の施設で 2 件の発生が報告された。ヴェストマンランド県での発生は、ワクチン未接種馬がイギリスから輸入されたばかりであった。

イギリス

4 件報告された。そのうち 3 件はノーフォーク、リンカーンシャー、スタッフォードシャーの施設における単発症例であった。1 件はノーサンバーランドの施設で 2 例であり、罹患した 2 頭とも *Streptococcus zooepidemicus* に重複感染していた。臨床症状としては、発咳、腹囲膨満、嗜眠、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱、眼脂などを認めた。鼻咽頭スワブの PCR 検査により陽性であることが確認された。

アメリカ

テネシー州とワシントン州の施設において、それぞれ 1 例ずつ、計 2 例が報告された。

ロドコッカス・エクイ

フランス

2 件の報告がされ、マンシュ県とローヌ県の施設で単発症例であった。1 例は PCR 法により陽性が確認された

腺疫

カナダ

9 件の発生が報告された。6 件は単発症例、2 件は 2 症例、1 件は 5 症例の発生であった。臨床症状としては、鼻汁、発熱、下顎膿瘍を認め、1 例に出血性紫斑病を認めた。

フランス

11 件の発生が報告された。そのうち 9 件は、アン県、コレーズ県、オート＝ガロンヌ県、オート＝サヴォワ県、イゼール県、パ＝ド＝カレー県、ローヌ県、サルト県で発生した単発症例であった。2 件はシャラント＝マリティーム県とコート＝ドール県で発生し、それぞれ 2 例の発生を認めた。臨床症状は、発咳、発熱、リンパ節腫脹、鼻汁などを認めた。鼻咽頭スワブ、喉嚢洗浄液を用いた PCR で陽性と診断された

オランダ

ドレンテ州、北ブラバント州、北ホラント州、オーファーアイセル州、南ホラント州、ユトレヒト州、ゼーラント州で 29 件の発生が報告された。陽性診断は PCR 法で確認された。

スウェーデン

スコーネ県とセーデルマンランド県の施設において、2 件の発生が報告された。

スイス

ルツェルン州の別々の施設で、単発症例を含む 2 件が報告された。臨床症状はリンパ節腫脹、ミオパチー、発熱、呼吸器症状、下顎リンパ節腫脹などを認めた。陽性診断は PCR 法で確認された。

アメリカ

カリフォルニア州、フロリダ州、カンザス州、ミシガン州、ミシシッピ州、テネシー州、ワシントン州、ウィスコンシン州では 35 件の発生が報告され、うち 32 件は単発症例であった。ミシガン州とワシントン州では 2 例、ペンシルベニア州では 3 例を含む集団感

染が発生した。臨床症状には、嚥下困難、顎間膿瘍、嗜眠、鼻汁、眼脂、発熱、重度の鼻汁、下顎の腫脹、下顎膿瘍、下顎リンパ節腫脹などを認めた。

消化器疾患

発生国	馬コロナウイルス	ロタウイルス	サルモネラ症
アルゼンチン	-	1	-
カナダ	-	-	2
オランダ	2	-	7
アメリカ	-	-	1

四半期末後に報告があったもの

馬コロナウイルス

オランダ

フリースラント州とオーファーアイセル州で 2 件報告された。陽性診断は PCR 法で確認された。

ロタウイルス

アルゼンチン

アルゼンチンの 1 施設で、2 頭のワクチン接種を受けた馬において A 群ロタウイルスによる子馬の下痢症が発生したことが報告された。陽性診断は PCR で確認された。

サルモネラ症

カナダ

ケベック州の施設で 2 件報告され、それぞれ単発症例であった。臨床症状として、発熱と下痢を認めた。

オランダ

フリースラント州、ユトレヒト州およびオーファーアイセル州の施設でサルモネラ症の集団発生が 7 件報告された。陽性診断は PCR 法で確認された

アメリカ

メリーランド州で 1 例報告された。臨床症状は下痢と発熱を認めた。

神経疾患

発生国	ボルナ	EEE	EHV-1	EHV-4	狂犬病	WEE	WNV
アルジェリア		-	-	-	-	-	5
アルゼンチン	-	-	-		-	#複数	-

オーストリア	-	-	-	-	-	-	1
カナダ	-	7	5	-	-	-	5
フランス	-	-	-	-	-	-	24
ドイツ	-	-	-	-	-	-	#7
オランダ	-	-	3	-	-	-	-
南アフリカ	-	-	#1	-	-	-	-
スウェーデン	-	-	1	-	-	-	-
スイス	1	-	-	-	-	-	-
チュニジア	-	-	-	-	-	-	1
米国	-	14	7	1	1	-	複数
ウルグアイ	-	-	-	-	-	1	-

四半期末後に報告があったもの

ボルナ病

スイス

グラウビュンデン州の施設でボルナ病の単発症例が報告された。非定型的な中枢神経症状が報告され、死後、中枢神経組織からボルナ病ウイルスの DNA が同定され、陽性診断が確定した。

東部馬脳炎（EEE）

カナダ

オンタリオ州およびケベック州の異なる施設で、それぞれ単発症例を含む 7 件が報告された。臨床症状としては、運動失調、沈鬱、感覚鈍麻、呼吸数増加、黄疸性粘膜、発育不良、神経症状、発熱、呼吸器症状、起立不能、痙攣、ふらつきなどを認めた。

アメリカ

アリゾナ州、コネチカット州、フロリダ州、メイン州、ニュージャージー州、およびニューヨーク州の別々の施設で 14 件、それぞれ単発症例が報告された。臨床症状としては、前肢および後肢の運動失調、大脳徴候、抑うつ、見当識障害、顔面麻痺、転倒、頭部圧迫、協調運動障害などがあった。

馬ヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）による神経疾患

カナダ

ノヴァ・スコシア州とオンタリオ州の別々の施設で 5 件、それぞれ単発症例が報告された。臨床症状には運動失調、排尿障害、眼振、横臥などがあった。

オランダ

ヘルダーラント州、北ホラント州、北ブラバント州で 3 件報告された。臨床症状には運動失調、疝痛、排尿困難、尾の虚脱、脚部浮腫、発熱などがあった。陽性診断は PCR で確認された。

南アフリカ

[#]四半期終了後、ハウテン州で 1 例の EHV-1 神経疾患が報告された。

スウェーデン

EHV-1 神経疾患の 1 症例がスコネ県の施設で報告された。この施設には妊娠馬を含む約 30 頭の異なる品種の馬が舎飼いあるいは放牧飼育されていた。舎飼いの馬のほとんどは 1～2 週間の間に発熱を示したが、放牧馬は罹患しなかった。この期間、検体は提出されなかった。1 週間後、発熱を起こした馬に運動失調と刺激に対する過敏性の神経症状が現れ、EDTA 血液の PCR 陽性で EHV-1 が確認されたが、鼻腔スワブは PCR 陰性であった

アメリカ

EHV-1 による神経疾患が 7 件報告された。そのうち 4 件はメイン州、ミズーリ州、ネバダ州、ペンシルバニア州の施設内の単発症例であった。イリノイ州とオレゴン州では 2 例ずつ、バージニア州では 3 例の発生が報告された。臨床症状としては、運動失調、咳、協調性の低下、脳症、起立不能、食欲不振、不穏、沈うつ、四肢の脱力、神経症状、運動麻痺、発熱、横臥、腹部浮腫、尿失禁などが見られた。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による神経疾患

アメリカ

ノヴァ・スコシア州とオンタリオ州の別々の施設で 5 件、それぞれ単発症例が報告された。臨床症状には運動失調、排尿障害、眼振、横臥などがあった。

狂犬病

アメリカ

テネシー州の施設で 1 件報告された。

西部ウマ脳炎 (WEE)

アルゼンチン

[#]四半期終了後、WEE の発生が複数報告された。これは根絶された病気が再発生したものである（1988 年以來、この地域では確認されていない）。臨床症状としては、衰弱、協調運動障害、頭部下垂などが見られた。検体を採取し、診断のために送付したところ、アルファウイルスの存在が確認された。同定のための追加検査により、ウマ脳脊髄炎（西部）が確認された。現在までに約 1,690 症例と 438 頭の死亡が認められた。陽性診断は nested RT-PCR と RT-PCR で確認された。

ウルグアイ

DSA の検査担当者が、ウルグアイのいくつかの農村部で WEE の疑い症例に立ち会った。サンプルが採取され、2023 年 12 月 1 日に Salto の施設で WEE が 1 例確認された。

臨床症状は神経過敏、痙攣、横臥、過敏症、発熱、頻呼吸、頻脈を認めた。DILAVE は検体の検査を継続し、いくつかの地域では臨床症状のあるウマが報告された。

ウエストナイルウイルス (WNV)

アルジェリア

5 件の発生が報告された。バリカ、ドウセン、エル・ハジャブ、シシ・アムランの 4 施設で単発症例が報告され、ジャマーで 2 症例を含む発生が報告された。陽性診断は ELISA で確認された。

オーストリア

ブルゲンランド州で 1 例の発生が報告された。

フランス

WNV のアウトブレイクが 24 件報告された。22 件は、ブーシュ＝デュ＝ローヌ県、シャラント＝マリティーム県、オート＝コルス県、ジェール県、ジロンド県の施設における単発症例であり、うち 2 例はピロプラズマ症との同時感染であった。他の 1 件は 2 症例、1 件は 8 症例で、いずれもジロンド県の施設で発生した。臨床症状としては、運動失調、移動困難、疲労、倦怠感、起立不能、神経症状、麻痺、発熱、反跳、振戦などであった。陽性の大半は ELISA によって診断が確定された。

ドイツ

ブランデンブルク州、ニーダーザクセン州、ザクセン州、ザクセン＝アンハルト州で、単発症例が計 7 件報告された。2 例は ELISA で陽性診断された。[#]これらのうち 2 例は四半期終了後に報告された。

チュニジア

アリアナの施設で 1 件報告された。臨床症状は痙攣と麻痺であった。PCR により陽性であることが確認された。

アメリカ

カリフォルニア州、デラウェア州、フロリダ州、ケンタッキー州、メイン州、ミシガン州、ミシシッピ州、ニューヨーク州、オクラホマ州、サウスカロライナ州、テネシー州、テキサス州、ユタ州、ワシントン州およびウィスコンシン州で、WNV の単発症例が複数報告されている。臨床症状としては、食欲不振、運動失調、失明、脳神経障害、喉つまり、痙攣、抑うつ、頭部振戦、知覚過敏、協調運動障害、筋痙攣、鼻汁、前肢の固有感覚障害、発熱、震え、後肢の脱力などを認めた。

その他の疾患

発生国	AHS	非定型 ミオパ チー	馬コロ ナウイ ルス	EIA	鼻疽	馬ピロ プラズ マ症	ハト熱	VS
アルメニ ア	-	-	-	-	1	-	-	-
ベルギー	-	31	-	-	-	-	-	-
ブルガリ ア	-	-	-	1	-	-	-	-
カナダ	-	-	-	2	-	-	-	-
フランス	-	68	-	-	-	-	-	-
ドイツ		1	-	-	-	-	-	-
オランダ	-	1	1	-	-	-	-	-
南アフリ カ	#4	--	-	-	-	#64	-	-
スイス	-	1	-	-	-	-	-	-
アメリカ	-	-	-	11	-	-	1	複数

#四半期末後に報告があったもの

アフリカ馬疫 (AHS)

南アフリカ

#四半期終了後、ハウテン州の施設で 4 例報告された。AHS は西ケープ州の AHS 管理地域を除き、南アフリカでは風土病として流行している。

非定型ミオパチー

ベルギー

ベルギーの施設で 31 例の非定型ミオパチーが報告された。これらの症例は、リエージュ大学の非定型ミオパチーサーベイランスネットワークを通じて報告された。

フランス

フランスで 68 例の非定型ミオパチーが報告された。これらの症例は、リエージュ大学の非定型ミオパチーサーベイランスネットワークを通じて報告された。

ドイツ

スイスとドイツの国境で、非典型的ミオパチーの 1 例が報告された。臨床診断により陽性と診断した。

オランダ

1 例の非定型ミオパチーが報告された。これらの症例は、リエージュ大学の非定型ミオパチーサーベイランスネットワークを通じて報告された。

スイス

1 例の非定型ミオパチーが報告された。これらの症例は、リエージュ大学の非定型ミオパチーサーベイランスネットワークを通じて報告された。

馬コロナウイルス

オランダ

1 件発生し、ユトレヒトの施設で 2 例が報告された。PCR 法で陽性が確認された。

馬伝染性貧血（EIA）

ブルガリア

ヴルチェドラムの施設で 1 例報告された。ELISA で陽性が確認された。

カナダ

2 件の発生が報告された。1 件はブリティッシュコロンビア州トンプソン・ニコラ地域の施設における単発症例、1 件はマニトバ州グランドビュウ地域の施設で 2 例であった。

アメリカ

11 件の発生が報告された。9 件はカリフォルニア州、ジョージア州、オクラホマ州、テキサス州の施設の単発症例であった。2 件はカリフォルニア州とテキサス州の施設で 2 例ずつ発生したものである。このうち、3 件の発生では、罹患した馬は安楽死となった。

鼻疽

アルメニア

コタイク州の施設で 1 例報告された。細菌培養により陽性と診断された。

ハト熱

アメリカ

ワシントン州スノホミッシュ郡の施設で 1 例報告された。

馬ピロプラズマ症

南アフリカ

#ピロプラズマ症は南アフリカの風土病であり、9 州中 7 州から以下の 64 症例が報告された。

B. caballi 症例：ハウテン州（5 例）、西ケープ州（1 例）、リンポポ州（1 例）

T. equi 症例：ハウテン州（27 例）、クワズール・ナタール州（1 例）、ムプマランガ州（12 例）、北ケープ州（1 例）、北西州（1 例）、西ケープ州（14 例）、リンポポ州（1 例）。

水疱性口内炎

アメリカ

流行開始以来、カリフォルニア州、ネバダ州、テキサス州の3州の317施設でVSV感染が確認されている（97陽性が確認され、220が疑い）。このうち307施設ではウマのみ、7施設ではウシのみ（カリフォルニア州フレスノ郡、サンディエゴ郡、サンタバーバラ郡）が臨床的症状を呈し、ウマとウシ両方が臨床症状を呈した施設が2件（カリフォルニア州フレスノ郡、マリポサ郡）、サイが罹患した施設が1件（カリフォルニア州サンディエゴ郡）あった。テキサス州では2郡（マーベリック郡とシャッケルフォード郡）、2で確認された（2例陽性）。ネバダ州では、1郡（ホワイトパイン郡）の1施設で確認された（1例陽性）。VSVに感染した全317施設のうち、312施設は新たな臨床例がなく検疫期間を終了し、検疫から解放された。カリフォルニア州では引き続き5施設において隔離が実施されている。

2023 年血清学レポート
動植物検疫庁（APQA）/KRA
韓国

アフリカ馬疫（AHS）、水疱性口内炎（VS）、馬伝染性貧血（EIA）、馬ウイルス性動脈炎（EVA）、日本脳炎（JE）、ウエストナイル熱（WNF）、馬インフルエンザ（EI）の血清学的調査を行い、韓国で飼養されている馬について、上記の疾病が存在する可能性について血清学的調査を実施した。

サラブレッドの種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニー、乗用馬など 1,332 頭の血清検体を採取した。検体採取は韓国馬事会（KRA）が行い、検査は韓国の動植物検疫院（APQA）が行った。

アフリカ馬疫（AHS）

市販の ELISA 検査キット（INGENASA、スペイン）および VN 検査では全検体が陰性であった。KRA の 5 カ所で採取された *Culicines* spp. はすべて抗原陰性であった。

水疱性口内炎（VS）

市販の ELISA 検査キットおよび VN 検査では全検体が陰性であった。

馬伝染性貧血（EIA）

市販の ELISA 検査キットおよび AGID 検査では全検体が陰性であった。

ウエストナイル熱（WNF）

市販の IgM 抗体検出 ELISA 検査キットおよび VN 検査では全検体が陰性であった。

馬ウイルス性動脈炎（EVA）

市販の ELISA（IDVET；スペイン）および VN 検査では全検体が陰性であった。

日本脳炎（JE）

ウイルス中和試験が実施され、1,331 検体中 1,138 検体（85.5%）が抗体陽性であった。抗体陽性の結果はすべてワクチン接種によるものであった。

馬インフルエンザ（EI）

血球凝集阻止試験を実施し、1,331 検体中 1,253 検体（94.1%）が抗体陽性であった。抗体陽性の結果はすべてワクチン接種によるものであった。

2023 年におけるピロプラズマ症の血清学的調査

ピロプラズマ症の血清学的調査は、上半期および下半期に KRA 競馬場、KRA および民間牧場に入厩したサラブレッドの種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニー、乗用馬など合計 376 検体を用いて実施された。検査は KRA が実施した。

ピロプラズマ症（*B. caballi*、*T. equi*）

市販の cELISA（抗体検査キット；VMRD USA；OIE 公認法）を実施し、*B. caballi* および *T. equi* は 376 検体中全検体が陰性（0%）であった。

2023 年におけるスーラ病の血清学的調査

KRA の競馬場および牧場に入厩しているサラブレッドの種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニー、乗用馬など合計 376 検体の血清からスーラ病の血清学的調査を実施した。検査は KRA によって実施された。

スーラ病 (*T. evansi*)

市販の CATT/*T. evansi* キット (AT&-PU、ベルギー) では全検体が陰性 (0%) であった。

2023 における馬伝染性子宮炎 (CEM) の PCR 調査

KRA は、韓国血統登録台帳 (<http://studbook.kra.co.kr>) に登録されているサラブレッド種牡馬と繁殖牝馬から採取した 2,119 検体について、CEM 検査を実施した。

馬伝染性子宮炎

2,119 検体中 1 検体 (0.04%) が生殖器スワブを用いた qPCR 検査で陽性と判定された。なお、2022 年の全 2,102 検体が陰性であった。

日本の競走馬における馬伝染性貧血のサーベイランス検査結果

2024 年 1 月 11 日
軽種馬防疫協議会

2017 年に農林水産省により、日本において馬伝染性貧血（EIA）は清浄化されたと結論づけられ、その後も EIA の清浄性の維持を確認するため、日本中央競馬会（JRA）と地方自治体が管轄する各トレーニング・センターまたは競馬場において、2020 年から EIA の自衛的なサーベイランス検査を行っている。2023 年においても、各施設約 300～2,000 頭程度の競走馬の中から、それぞれ無作為に 60 頭を抽出し、2022 年秋に採取した血清サンプルを用いて寒天ゲル内沈降反応（AGID）による検査を実施した。

サーベイランス検査の結果を下表に示す。EIA 陽性馬は検出されず、日本の競走馬集団における EIA の有病率は 95%信頼区間で 5%未満であることが示唆された。

表 2023 年 EIA サーベイランス検査結果（AGID）

トレーニング・センター 競馬場	団体名 (JRA、地方自治体)	検体数	陽性頭数
美浦トレーニング・センター	JRA	60	0
栗東トレーニング・センター	JRA	60	0
帯広競馬場	帯広市（北海道）	60	0
門別競馬場	北海道	60	0
盛岡競馬場	岩手県	60	0
水沢競馬場	岩手県	60	0
大井競馬場	東京都	60	0
浦和競馬場	埼玉県	60	0
船橋競馬場	千葉県	60	0
川崎競馬場	神奈川県	60	0
金沢競馬場	石川県	60	0
笠松競馬場	岐阜県	60	0
名古屋競馬場	愛知県	60	0
園田競馬場	兵庫県	60	0
高知競馬場	高知県	60	0

日本における CEM（馬伝染性子宮炎）のサーベイランス検査結果

2022 年 1 月 11 日

軽種馬防疫協議会

馬伝染性子宮炎（CEM）は、1980年に北海道の日高・胆振地方において国内で初めての流行を見せ、同年中に321頭の馬から *Taylorella equigenitalis* が分離された。2001年からはPCR検査を用いたCEMの清浄化への取り組みが始まり、繁殖登録されているサラブレッド全頭を対象に、毎年繁殖シーズン前にPCR検査による調査を行った。調査結果を表1に示す。陽性馬に対しては治療を行い、3回連続で陰性判定が得られるまでPCR検査を実施した。また、治療にもかかわらずPCR陽性が続いた場合には、安楽死処置を行った。2011年に「馬防疫検討会」において、2010年以降、国内のサラブレッドはCEMから清浄化されていると結論づけられた。

表 1. CEM 清浄化プログラムにおける検査頭数および PCR 陽性摘発頭数

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
登録種牡馬	411	412	389	351	331	305	281	282	311	269
登録繁殖牝馬	12411	12276	11499	11130	10670	10297	10253	10263	9872	10765
PCR陽性牡馬	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PCR陽性牝馬	10	4	2	1	1	0	0	0	0	0

同年に複数回 PCR 検査を実施した馬を含む。PCR 陽性馬のうち、2001 年に 2 頭、2002 年、2004 年、2005 年に各 1 頭の牝馬が安楽死となった。

2011 年からは抽出サーベイランスを行っている。牡馬については、繁殖シーズン前に全頭に対して PCR 検査を行い、陰性を確認した後、繁殖シーズン後にもほとんどの馬に再検査を実施している。牝馬については、初交配前および子宮内膜炎症状がみられた際に PCR 検査を行っている。調査の結果、2022 年現在まで陽性例は認められていない（表 2）。今後も国内における繁殖用馬に対するサーベイランスおよび ICC への報告を継続していく。

表 2. PCR 検査による抽出サーベイランスの結果

[illegible]

